



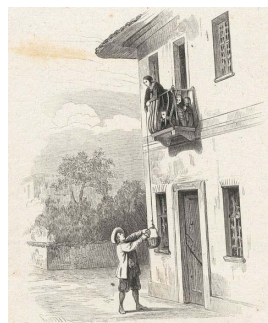
疫病と文学

— コロナ禍のなか再読されたイタリア文学

新型コロナウイルスの世界的大流行（パンデミック）のなか、過去に実際に蔓延した、あるいは想像上の疫病を描いた文学作品に注目が集まり、再読されました。イタリア文学で特に有名なのはペストを描いた二つの作品、ボッカッチョの『デカメロン』とマンゾーニの『婚約者』です。両作品（特に講演者が専門とする後者）を例に、疫病と文学の関係を考えてみたいと思います。

霜田 洋祐（大阪大学大学院 人文学研究科 外国学専攻 講師）

京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。専門はイタリア近代文学。



2月15日
開催！

会場は大阪大学
箕面キャンパス
です！

【日時】2024年2月15日（木）19:00-20:00

【場所】大阪大学 箕面キャンパス 1F 大講義室

大阪府箕面市船場東3丁目5-10

またはオンライン（参加者にはリンクをお知らせします）

【お申込受付期間】2024年2月5日～12日（平日9～17時）

下記のURL／右記のQRコードの登録フォームにて

<https://forms.office.com/r/610R4mCFuH>

または大阪大学外国語学部 ☎ 072-730-5013

✉ jinbun-minoh-jigyo@office.osaka-u.ac.jp

※13日を過ぎても連絡メール不着の場合は担当者までお知らせください。

【参加費】無料

マンスリー 多文化サロン



👉 登録フォームはこちら

主催：大阪大学外国語学部

協力：みのお市民活動センター